

もと の かわ ち
元野河内遺跡

県営農地保全整備事業元野地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書



宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

例　　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業元野地区に伴い田野町教育委員会が実施した、元野河内遺跡の調査概要報告書である。

2. 調査は、次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教 育 長	鍋 倉 政 信
		社会教育課長	前 田 久 育
		社会教育課長補佐兼係長	川 口 博 文
調整・事務担当		同 主 任	森 田 浩 史
発掘調査担当		同 主 事 补	金 丸 武 司

3. 出土遺物、図面等の整理にあたっては、次の方々の補助をえた。



4. 本書の執筆は金丸武司が担当した。

5. 現地の調査にあたっては、田野町在住の方々の参加をえた。

6. 本書にもちいた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

7. 出土遺物は田野町教育委員会で保管している。

8. 本書にもちいた土色は、農林省農林水産技術会事務局監修の「標準土色帳」による。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と環境	2
第Ⅱ章 調査の結果	3

挿図目次

第1図 元野河内遺跡位置図	1
第2図 調査区周辺地形図	2
第3図 出土資料実測図	4

写真図版

A区出土状況	5
B区出土状況	5
C区出土状況	5
D区出土状況	5
E区出土状況	5
F区出土状況	5

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

田野町元野地区では、平成4年度より県営の農地整備事業が実施されている。

今年度の計画区域はこれまでに調査が行なわれた河川の合流による半孤立化した台地東側の突出部ではなく、元野地区台地西側の、河川の影響により開析谷が入り組んでいる地点にある。この整備事業に先立って県文化課による試掘調査が行なわれた。

その結果、アカホヤ火山灰層下位において若干量の生活址が確認され、調査区域は縄文時代の遺跡であるという結果が得られた。

その後、県文化課と中部農林振興局の間で協議が行なわれ、同年4月23日に町教育委員会と町農業整備課を含め、遺跡の保存方法についての具体的な協議が行なわれた。そして、工事施工上消滅を免れない部分についてのみ、発掘調査による記録保存の措置を講じることで合意に至った。その後、平成8年8月21日に中部農林振興局との委託契約を締結し、同年8月21日より発掘調査に着手した。

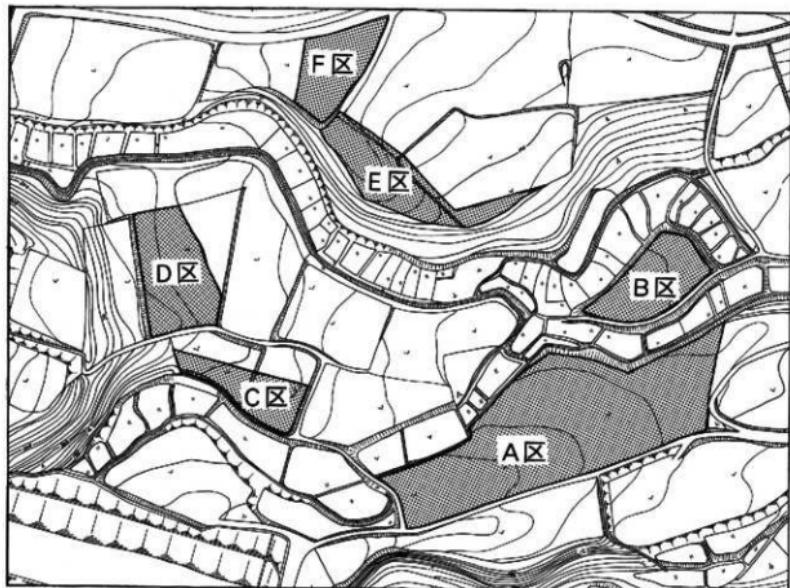


第1図 元野河内遺跡位置図

第2節 遺跡の立地と環境

田野町は、宮崎平野と都城盆地のおおよそ中間地点にあたり、東西及び南北には約14km、総面積は109.01km²である。中央部には市街地にあたる田野盆地があるが、外側には火山活動により形成された広大なシラス台地が盆地を取り囲むようにして発達している。台地部には更に周辺に林立する山地を水源とする河川が、深い谷を刻みながら流れ込んでいる。このような地形は、特に縄文時代の遺跡の立地環境としては絶好の条件下にあり、そのため町内には丸野第2遺跡や芳ヶ迫第1遺跡、札ノ元遺跡など当該期の良好かつ貴重な遺跡が各地に存在している。

この度調査が行なわれた元野河内遺跡は元野地区の西側にあたり、付近の山地から流れる小河川により不規則な段丘状になった標高約190mの台地上に立地する。この台地上には本野遺跡（縄文早～中・弥生）、黒草遺跡（縄文早～後）などの大規模な複合遺跡が形成されているが、それらがすべて台地上の平坦面を利用しているのに比べ、当遺跡は主に河川の浸食により凹凸の激しい複雑な地形となる点が特徴として挙げられよう。



第2図 調査周辺地形図

第Ⅱ章 調査の結果

(A区)

面積約2000m²と、調査区の中でもっとも広い面積を占めたのがA区である。

調査区内には、集石遺構が37基、土坑が3基検出された。他に、多数の土器・石器も出土している。土器は押型文土器、手向山式土器、あるいは天道ヶ尾式土器の割合が多い。石器では、石錐の出土の度合いが大きく、石匙、石斧も出土している。石材は姫島産の黒耀石が多くたが、サヌカイトの原礫が出土したことも特筆されよう。

(B区)

以前この地点は河川の中洲であったと考えられる。約350m²の調査区の間に、集石遺構が36基も確認され、その大部分が堀込みを持たぬ小規模のものである。土器の出土は一転して殆ど認められず、僅かに押型文土器が確認される程度である。またこの地点は、中洲という天然の地形を利用して、かつて赤痢患者を隔離する施設が所在しており、その隣接で建られた小屋に設置された便所穴と思われる正方形の土坑がほぼ全面に一定の距離をおいて確認された。

(C区)

河川の活動により谷状になった地形の南端台地上に形成されている。この区は斜面の下位にあたるため、上層からの流れ込みが激しく、遺跡の立地としては不向きな条件下にあるが、8基の集石遺構と、4基の土坑の検出をみた。遺物は、縄文時代の遺物の出土は少量のみに留まったが、縄文時代の遺物包含層より更に下層から、剥片尖頭器や角錐状石器などの、旧石器時代にあたる遺物が出土した。面積は約300m²である。

(D区)

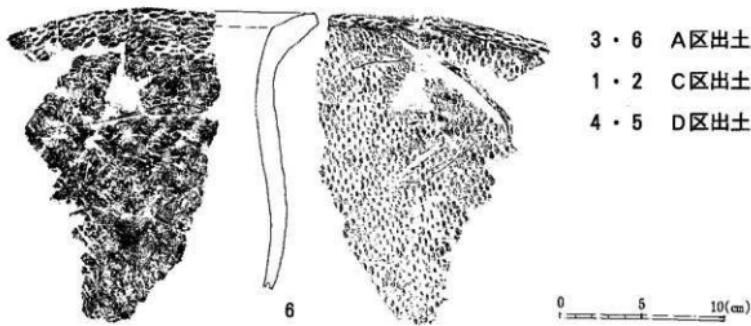
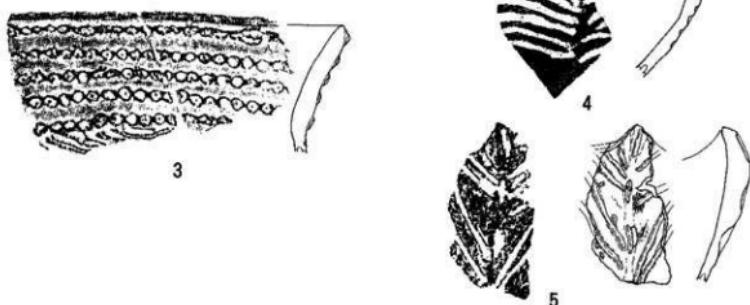
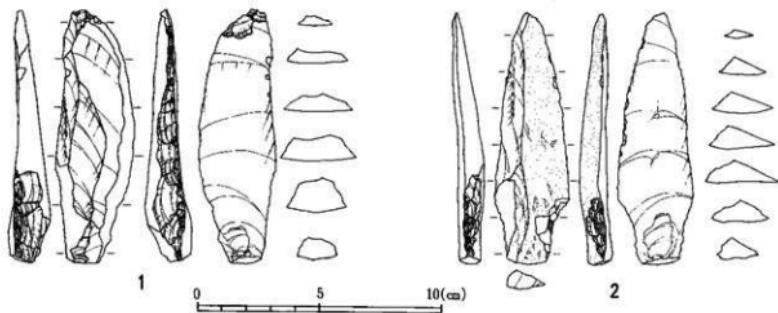
この地点は、本遺跡の主要な遺物包含層が飛んだ形になっていたが、上層のアカホヤ火山灰の二次堆積層中に、少量ながら縄文時代中期に比定される土器や曾畠式土器などが出土した。集石等遺構に類するものはまったく検出されなかった。

(E区)

A区北部に刻まれた谷の反対側に位置する。調査区は緩やかな斜面上にあり、約450m²の調査区中には、集石遺構が26基、土坑が7基確認された。遺物の出土はさほどではなかったが、集石遺構に共伴して良好な条痕文土器が出土した。石器は、縄文石器のはか下層からは旧石器時代相当の遺物も出土している。

(F区)

E区の西側に位置する。約250m²の調査区はアカホヤ火山灰二次堆積層まで良好に残存しており、中期相当の土器も確認された。更にアカホヤ層の下層より早期の遺物が多数出土した。土器は押型文土器が多いようである。石器組成は他調査区と大差無いが、ナイフ形石器が1点出土している。遺構は集石遺構が8基、土坑が5基である。



3・6 A区出土

1・2 C区出土

4・5 D区出土

0 5 10(cm)



A区 出土状況



B区 出土状況



C区 出土状況



D区 出土状況



E区 出土状況



F区 出土状況

報告書抄録

ふりがな	もとのかわちいせき				
書名	元野河内遺跡				
副書名	県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書				
卷次	田野町文化財調査報告書				
シリーズ名					
シリーズ番号	第27集				
編著者名	田野町教育委員会 金丸武司				
編集機関	田野町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲2818番地				
発行年月日	1997年3月31日				
所収遺跡名	所在地	コード 市町村：遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
元野河内遺跡	田野町甲元野 字元野河内	:	1996.8/21 ～1997.1/31	12.000m ²	農地整備
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
散布地	縄文時代	集石遺構 土坑	押型文土器、下剥峰式 土器、天道ヶ尾式土器、 曾畠式土器	ナイフ形石器他、旧石 器時代の遺物も出土す る	

田野町文化財調査報告書 第27集
元野河内遺跡

発行年月 1997年3月
編集・発行 田野町教育委員会
印 刷 梶 昭 和 印 刷